

堺小学校「いじめ防止基本方針」

平成26年3月10日制定

平成27年4月15日改定

平成29年6月12日改定

平成30年5月16日改定

令和6年4月3日改定

基本方針策定の趣旨

いじめの防止・解消に取り組むにあたっては、「いじめ」がもたらす深刻な人権侵害の事実、心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えること、いじめの結果として生命又は身体に重大な危険をもたらすこと等、「いじめ」の帰結を十分に認識しておかなければならない。つまり「いじめ」にはどのような特質があるのかを十分に理解しなければならない。また、昨今の社会情勢において、人権意識の高揚が叫ばれているにもかかわらず「ネット上でのいじめ」等、新たな「いじめ」が絶えない状況など、「いじめ問題」の根深さについても理解しておかなければならない。

したがって、どの子どもにも起こりうるという事実を踏まえ、日々「未然防止」と「早期発見」に取り組むとともに、いじめが認知された場合の「早期対応」を的確に行うこと、いじめ対応能力の向上に向けた研修の充実が必要である。

そこで、全教職員が「いじめの定義」や「いじめ防止に関する基本的な考え方」を認識し、堺小学校の基本理念である「子どもの元気と笑顔があふれる明るい学校づくり」のもと、「堺小学校『いじめ防止基本方針』」を定める。

1. いじめ防止に関する基本的な考え方

(1) 【いじめの定義】

「いじめ」とは、児童生徒に対して、一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）で、対象となった児童生徒が、心身の苦痛を感じているものをいう。

【平成25年9月28日施行「いじめ防止対策推進法」より】

(2) 【いじめの基本認識】

- ・ いじめは人間として絶対に許されないという強い認識に立つこと
- ・ いじめ問題に対しては被害者の立場に立った指導を行うこと
- ・ いじめ問題は学校の在り方が問われる問題であること
- ・ 関係者が一体となって取り組むことが必要であること

2. 具体的な取り組み

I いじめの未然防止 ～いじめを生まない土壌づくり～

○人権教育の充実

- ・全教育活動を通じた人権教育の推進を堺小の教育課程のもと実施し、いじめのない誰もが楽しいと思える学校づくりを推進する。
- ・いじめは、相手の「基本的人権を脅かす行為であり、人間として決して許されるものではない」ことを、子どもたちに理解させる。
- ・子どもたちが人を思いやることができるよう、人権教育の基盤である生命尊重の精神や人権感覚を育むとともに、人権意識の高揚を図る。
- ・自他の良さを大切にし、相手を思いやる心を育てるために自尊感情の育成を図る。

○道徳教育の充実

- ・道徳の授業により、未発達な考え方や道徳的判断力に起因する「いじめ」を未然に防止する。
- ・いじめを「しない」「させない」「許さない」という強い正義感を有した意志を育てる。
- ・道徳の授業において、児童の実態に合わせて、内容を十分に検討した題材や資料等も適宜取り扱い、いじめを許さない考えを育てる。
- ・当事者の立場に立って他者を自分と同じように尊重する心や「いじめ」に対する正しい理解に基づき行動する態度の育成を図る。
- ・子どもたちの心根が揺さぶられる教材や資料に出会わせ、人としての「気高さ」や「心づかい」「やさしさ」等に触れることによって、自身自身の生活や行動を省み、いじめを抑止する。
- ・「オープンスクール」において、全学年で道徳の授業を公開し、生命や人権を大切にする態度の育成に努める。

○体験教育の充実

- ・子どもたちが、他者や社会、自然との直接的なかかわりの中で自己と向き合うことで、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心に自らが気づき、発見し、体得する。
- ・福祉体験やボランティア体験、勤労体験等、発達段階に応じた体験活動を体系的に展開し、教育活動に取り入れる。
- ・異学年交流（縦割り交流）、小中連携、保小連携や地域との連携を計画的に実施し、人と人のつながりを大切にする。
- ・1. 17を中心に防災と命を考える期間を設定し、「命（防災）の学習」を実施する。

○コミュニケーション活動を重視した特別活動の充実

- ・日々の授業をはじめとする学校生活のあらゆる場面において、他者と関わる機会や他者と関わる生活体験や社会体験を取り入れる。
 - ・子どもたちが、他者の痛みや感情を共感的に受容するための想像力や感受性を身につけ、対等で豊かな人間関係を築くための具体的なプログラムを教育活動に取り入れる。（エンカウンターグループ・ソーシャルスキルトレーニング・アサーショントレーニング等）
 - ・児童会活動において、自尊感情や自己肯定感を高めるための取組を児童主体で行う。
 - ・インターネット上のいじめについては、ネット上の匿名性の特性を知り、SNS等でのグループ内やグループ間で生じやすい排他意識について考える。そして、インターネットを使用する際のルールなど、ネットモラルを指導するとともに、平素から情報を得るよう心がけ、保護者の協力のもと関係機関との連携を図り、速やかな解決に努める。
- 保護者や地域の方への働きかけ
- ・授業参観や保護者研修会の開催、学校・学年だより等による広報活動により、いじめ防止対策や対応についての啓発を行う。
 - ・個人懇談や家庭訪問等で、児童の様子について情報を共有しておく。
 - ・PTAの各種会議や保護者会等において、いじめの実態や指導方針などの情報を提供し、意見交換する場を設ける。
 - ・情報モラル教育の充実を図り、保護者が子どもにスマートフォン等を持たせる際の責務についても周知し、インターネットを使用する場合のルールやモラルについて啓発や研修を行い、ネットいじめの予防を図る。

Ⅱ いじめの早期発見について ～小さな変化に対する敏感な気づき～

- 日々の観察
- ・教職員が子どもたちと共に過ごす機会を積極的に設けることを心がけ、いじめの早期発見を図る。
 - ・休み時間や昼休み、放課後の雑談等の機会に、子どもたちの様子に目を配り、「子どもたちがいるところには、教職員がいる」ことを心がける。
 - ・いじめの早期発見のためのチェックリストを活用する。
 - ・いじめの相談窓口があることを知らせ、相談しやすい環境づくりをする。
- 観察の視点
- ・子どもたちの成長の発達段階を考慮し、丁寧で継続した対応を実施する。
 - ・担任を中心に教職員は、子どもたちが形成するグループやそのグループ内の人間関係の把握に努める。

- ・グループ内での気になる言動を察知した場合、チームで適切な指導を行い、人間関係の修復にあたる。

○日記や連絡帳、生活ノートを活用

- ・日記や生活ノートの活用によって、担任と子ども・保護者が日頃から連絡を密に取り、信頼関係を構築する。
- ・気になる内容については、教育相談や家庭訪問等を実施し、迅速に対応する。

○教育相談（学校カウンセリング）の実施

- ・教職員と子どもたちの信頼関係を形成する。
- ・日常生活の中での教職員の声かけ等、子どもが日頃から気軽に相談できる環境をつくる。
- ・定期的な教育相談期間を設けて、全児童を対象とした教育相談を実施する。

○いじめ実態調査アンケート

- ・アンケートは発見の手立ての一つであると認識した上で、実態に応じて毎学期（年間3回）実施する。
- ・実施にあたっては、生活アンケートの中に含めて調査し、実態の早期発見に努める。
- ・アンケートの内容や記入方法については、その都度点検し、より記入しやすいものになるように努める。

| |
|------------------------------------|
| Ⅲ いじめの早期対応について ～問題を軽視せず、迅速かつ組織的に対応 |
|------------------------------------|

○正確な実態把握

- ・いじめが疑われる事象が発生した場合、まず被害者の心のケアを念頭に置いた対応を前提に、事態が継続することのないように注意義務をはらう。
- ・当事者双方や周りの子どもからの聴き取りを行い、情報収集と記録、いじめの事実確認等に努める。
- ・関係教職員と情報を共有し、事案について正確に把握する。
- ・一つの事象にとらわれず、いじめの全体像を把握するよう心がける。

○指導体制、方針決定

- ・「洲本市いじめ防止基本方針」に基づき「いじめ・不登校対策チーム」を設置する。
- ・教職員全員で共通理解を図り、指導のねらいを明確にする。
- ・いじめの防止等に関わる教職員の対応能力の向上に向けた研修を企画・実施する。
- ・問題を把握したら一人で抱え込まず、指導体制を整え、対応する教職員の役割分担を明確にして組織で対応する。

- ・教育委員会、関係機関との連絡調整を密に行う。（報告・連絡・相談の徹底）
 - ・いじめ防止への取組について、定期的に点検・評価を行い改善に努める。
- 子どもへの指導・支援
- ・いじめられた子どもの保護に努め、心配や不安を取り除く。
 - ・いじめた子どもに対して、相手の苦しみや痛みに思いを寄せる指導を十分に行うとともに、「いじめは決して許される行為ではない」という人権意識を持たせる。
- 保護者との連携
- ・いじめ事案解消のための具体的な対策について丁寧に説明する。
 - ・保護者の協力を求め、いじめ基本方針についての説明や意見交換をする機会を設け、学校との指導連携について十分協議する。
- いじめ発生後の対応
- ・継続的に指導・支援を行う。
 - ・スクールソーシャルワーカーによる支援やスクールカウンセラー等を活用し、子どもの心のケアに努める。
 - ・心の教育・命の教育の充実を図り、誰もが大切にされる学級経営を行う。
- 全体指導計画の作成と実践的な校内研修の実施
- ・児童理解に関する研修、指導援助の在り方に関する研修を実施する。
 - ・各分掌の役割を明確化し、日常的な取組を実施する。
 - ・心の教育総合センターが開発した「いじめ未然防止プログラム」の活用や、いじめの具体的事例をもとにした校内研修を充実させる。

令和6年4月3日 確認